

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大同の GEN20 周年記念イベントのあと記念撮影

Contents

- 大同で GEN20 周年記念イベント開催 P2
- 2012 夏の黄土高原ツアー報告 P4
- 伊吹山お花畑見学会報告 P5
- 20 周年記念シンポジウムのご案内 P6

2012.9
147

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

大同で GEN20 周年 記念イベント開催



緑色地球ネットワーク大同事務所が「集体一等功」を受賞



熱烈歓迎を受けるツアー参加者

2012年8月24日の午前、大同の新しい拠点、緑の地球環境センターで、黄土高原緑化協力事業20周年記念のイベントが盛大に開催されました。日本側で参加したのは、緑の地球ネットワークが派遣したスタディツアー（24名）と（社）大阪市RR厚生会のツアー（5名）。中国側からは、大同市の幹部、大同市総工会に属する労働者、そして地元の農民、小学生など200名余り。

日本の参加者を乗せたバスが停まると、「歓迎！歓迎！熱烈歓迎！」と人の波が揺れます。「鑼鼓」と「秧歌」を趣味として楽しむサークルの女性集団。前者は銅鑼（どら）と太鼓を勇壮



赤いリボンのついたスコップで記念植樹

地元の小学生たちも参加

に演奏し、後者は扇やリボンを華麗に操って踊ります。

日本からの参加者のなかには、この段階でもう涙ぐむ人も。それには理由があります。中国では反日デモの嵐が吹き荒れているという報道に、ずっと心配していたからです。それとこの歓迎との落差。

管理棟の門前で記念植樹をしたあと、大同市総工会の柴京雲副主席の総合司会で式典がはじまりました。最初に挨拶に立ったのは大同市総工会の張志偉主席（大同市人民代表大会副主任を兼務）。20年間に日本側から3,400万円以上の資金協力を受け、5,500ha、2,000万本以上の植樹を実施し、その範囲が9つの区・県に及んでいること、日本から迎えたボランティアは3,000人以上、そして総工会や青年団中央の幹部、日本の大使、公使、著名人など多数の視察があったことなどを、具体的な数字をあげて詳細に報告しました。

そのあと日本側の前中久行代表が冒

立花吉茂先生の記念碑が
南天門自然植物園に



年ごとに緑が濃くなる南天門自然植物園。いまでは20年間の私たちの緑化協力事業の希望の存在となっています。植物園建設を最初に提唱したのが立花吉茂前代表でした。そこにはたくさんの願いが込められていましたが、なかでも重要だったのが、持続可能で多様性のある森林再生のモデルをつくること。このたび、管理棟の門前に先生の記念碑が立ちました。

頭は中国語、その後は日本語で挨拶しました。「20年間を継続して大きな成果をあげ、成功をおさめることができたのは、みなさんの努力のおかげです。運がよければあと30年は生きて、樹木の生長を見まもりたい」とユーモアたっぷりに語られました。

つづいてサントリー労働組合の神吉久永委員長、イオンリテールワーカーズユニオンの本間真人さんの挨拶がありました。おふたりの参加で、この式典もいっそう意義深いものになったと思います。日本側の最後に高見事務局長がたち、ただふた言「長いあいだありがとうございました。今後もしよろしく願ひいたします」と述べました。

共産党大同市委員会の柴樹彬副書記がマイクをとり、「緑の地球ネットワークの協力が20年間継続し、各地に森林を再生させ、成果をあげていることに、大同市政府と人民は深く感謝している」と述べました。

そこで大同市労働コンクール委員会から、緑色地球ネットワーク大同事務所がこの協力事業を着実に推進してきたことにたいして「集体一等功」が贈られ、賞状と記念の楯が柴副書記から武春珍所長に手渡されました。➤

苗の植え方「ビニール袋は取り除く」の確認実験（下）

前中 久行 (GEN 代表)

大同での植樹の時に、苗のビニール袋を「破ってはいけない」といわれていることに反論するための実験について前号からの続きです。

実験場所は緑の地球環境センターです。植え方として、①ビニール袋そのまま上端のビニールは水の浸入を遮断するように重ねて閉じる、②袋の底を切り開き上端は重ねて閉じる、③袋の底を切り開き上端はめくって開ける、④土を残してビニールは全て取り除く、⑤土を落として裸根にする、の5区分を設けました(写真)。①から④⑤まで順に苗の根の部分への水の到達が容易になると考えられます。油松をそれぞれ13本植えました。④がGENの植え方です。実験開始は4月24日です。植え付け直後に一度だけ灌水しました。その後は決して灌水しないよう念を押して帰国しました。なにもいわないでくと「前中老師の大事な松だから枯らさないように!」と武春珍所長の指示でしょっちゅう灌水してくれそう。それでは実験にならず、通常の緑化現場とは条件が変わってしまいます。

さて、どうなったのでしょうか。6月4日に大同について一番にみにいきました。まだ一本も枯れていません。残念！

苗の生残りでは差がありませんので、植栽後新しく伸びた幹の長さを測ってきました。松は一年に一度だけ新芽を伸ばし樹高成長します。その長さは、当然芽が伸びる期間の木の水分状

➤ 式典のあと、労働者文工隊によるアトラクションに移りました。歌あり踊りありのたいへん派手な演出が長時間つづきました。日本側参加者はびっくりしたんですね。みんなプロだと思ったんですよ。で、「ものすごくたくさんの費用がかかるでしょう？」と、何人もの人からきかれました。それくらい達者な芸だったのです。でもこの人たちは総工会に属する労働者劇団のメンバーなのです。この層の厚みが中国

態も反映しています。幹の伸びは①平均 9cm、②は 12cm、③ 13cm、④ 16cm、⑤ 11cm で大小がありました。

8月23日に夏のツアーで再度みてきました。期待に反して？ビニール袋のまま埋めた①もまだ枯れていません。今年は水が十分あったため？7月21日の53.9mmの降水など今年の大同は記録的な大雨と現地の新聞に出ています。

一本ずつ確認すると、GEN 推奨方式の④の一本が生育不良です。アチャ！
ただしこれは幹をなにか動物に齧られたためでした。さらに裸根で植えた⑤の一本は地上部が完全になくなっています。

今年伸びた幹の直径も測りました。
① 平均 3.6mm ② 4.1mm ③ 4.2mm ④ 5.4mm ⑤ 4.4mm で大小がありました。
断面積で比較すると 2 倍以上のちがいです。

ビニール袋を完全に取り除き土を残した④は幹長・直径とも成長量が断トツに大きくて、これに次ぐ底だけ開いた②③や裸根にした⑤は相互にほぼ同じでした。ビニール袋のまま埋めた①は、他の処理よりも幹長・直径とも小さくなっていました。「破ってはいけない」を実行した松の成長が最も悪くなっています。底を破っただけの松は、完全に取り除いた松よりも成長量が小さくなっています。

これらの結果はGENが行ってきた「ビニールは必ず取り去る」を支持しています。ただし、色々な人たちのや
● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
の特徴なのでしょうね。

記念イベントは無事に終了しました。
日本側参加者からは、たいへん感動し
た！という感想が口々に語られました。
両国関係が緊張し、一般的にいえば国
民感情も最悪のなかでの開催でしたの
で、緑色地球ネットワーク大事務所はずいぶ
ん慎重に準備をし、ストレスを感じて
いたのです。ほんとによかった！

地元紙『大同日報』がこの記念活動
を記事にしました。20周年記念活動は



り方をみていると、植物に力を加えることなくビニール袋の縁と縁を持って外すとか鋭利な刃物でビニールを切り裂くなど、取り除く手順と方法に注意と工夫の余地が残されていると感じています。

また、裸根でも活着できることが再確認できました。かつては裸根苗を使っていたのですから当然といえば当然です。成長量も「破ってはいけない」よりはずっと大きいのです。移植に適した時期であって、運搬中に根を乾かさななど適正に管理すれば、裸根苗も利用可能です。緑化の目的や諸条件を考慮すれば、裸根苗の利用も選択肢のひとつであることも示していると思います。大同の道路・観光地などをみていると最近はやまじく植えられています。潤沢な予算を背景として緑化手法がドンドン高経費化かつ過剰仕様化する一方で、従来からあるコストパフォーマンスのよい手法や技術の多様性が忘れられているとすれば残念です。

ビニール袋のまま植えた松は枯れる
のか？ この実験は来年も継続します。



実験された様々な植え方、左から①②③④⑤

このあと、11月に大阪で、2013年1月に北京で開催します。



アトラクションでは「美麗大同」などを熱唱

20年目の黄土高原の夏

今年の夏はGEN夏の黄土高原スタディツアー（8/19～8/25、24名）、（社）大阪市RR厚生会（8/23～8/27、5名）が大同を訪問し、緑化活動に参加しました。写真でGEN夏のスタディツアーのようすをご紹介します。



ルリタマアザミ



（写真左上）ツアー初日は大同市霊丘県に到着。2日目は一日南天門自然植物園で活動しました。植物園の初期のようすの写真を見た直後だったので、植物園内のようすの変化に感激。

（写真左下）午後は園内で植樹を行ないました。李向東園長のスコップさばきに負けずにがんばって穴を掘ります。

（写真右上）3日目は広霊県へ。白羊峪林場を見学したあと、コノテガシワを植樹しました。



4日目、渾原県呉城村を訪問しました。村の党書記の案内でアンズ畑を見学したあと、お昼ごはんをごちそうになりました。



5日目は午前中盛大な記念イベントに参加したあと、緑の地球環境センターを見学。マツ苗畑の草取り作業をおこないました。日に焼けて顔が真っ赤に。

大同最後の夕飯はセンターの中庭でバーベキュー。羊の肉や野菜はもちろん、マントウも焼きました。夕方のすずしい風を感じながらおなかいっぱいいただきました。



4日目の午後采涼山地球環境林を見学。年々大きくなるマツと一緒に記念写真。



GEN 自然と親しむ会報告

伊吹山お花畑見学会に参加して

三戸 幸久（GEN 会員・愛知県）

7月29日、伊吹山のお花畑での薬草見学会を行ない、28名が参加しました。お花畑見学会後は醒ヶ井に立ち寄りバイカモの花を見ました。

暑い暑い関ヶ原駅前に集合。バスでいっきに伊吹山山頂駐車場へ。涼し～い！ 日曜日とあって人が多い。山腹の斜面に目をやると、「見て！見て！」と人間たちを誘っているように色とりどりの花々が咲いている。

参加の皆さんは西遊歩道を登って山頂へ向かう。植物に詳しい先生方も多く参加されていて、ときどき立ちどまっての解説が楽しい。赤い花をつけたシモツケソウ、見分けがつかない美しい紫色の花穂のルリトラノオとクガイソウ、黄色く大きな花のキンバイソウ、つぎつぎときれいな花ばなが…。おぼえきれない!! もうお花畑を堪能するしかない。すこし汗をかいて頂

上につく。つぎは弁当の花ざかり。

お昼の時間がおわりあたりを散策。避暑目当てにやってきたのか涼しそうにゴロ寝を楽しんでいる人もいる。山頂散策でもっとも印象に残ったのはイブキジャコウソウ。まず花は小さくピンク色。「タイムそのものです」と解説され、すかさず高見事務局長が「これ木ですよー」と。木なんだ！ハーブか！と、小さな葉をさわらせてもらいかいでみる。タイムのにおいも麝香のにおいも知らないがこの香りはハーブだ！と感激。スカボロフェアの歌詞に出てくるあのタイムとはこの仲間なんだと勝手にまた感激。割石の間から顔をだしたキリンソウの話、植物遷移



の話もおもしろく、楽しい時間はあっというまに過ぎ、下山時間。花々を満喫しながら山頂をあとにしました。

高見さんはじめ事務局の方がた、先生方お疲れさまでした。楽しい一日をありがとうございました。

参加者募集

GEN 自然と親しむ会

無煙炭化器で炭焼き体験

もはや恒例企画! 「無煙炭化器を使った炭焼き体験会」を今年も開催します。非常にシンプルな形状ながら、ほとんど煙を出さずに1時間ほどで炭焼きができてしまう無煙炭化器。大同では土壌改良に大きな効果を発揮する木炭の生産に大活躍中です。

今回の会場は京都府八幡市の淀川河川公園。集めた流木で炭焼きをするほか、お芋さんやトウモロコシ達を焼いたり、豚汁を作ったりします。遠い中国に思いを馳せつつ、交流を楽しみましょう。

- 日時：2012年10月28日（日）午前10時～午後3時頃
- 集合：京阪電鉄・八幡市駅前に午前10時
- 参加費：500円（保険・食材費を含む）
- 場所：淀川河川公園背割堤地区（仮設トイレ有り）宇治川と木津川の間。無料駐車場あり。
- 持ち物：芋やトウモロコシ、主食、飲み物、作業のできる服装、軍手、雨具、あればノコギリ
- 申込み：10月24日までにGEN事務

所へ氏名・年齢・連絡先をお知らせください。

※雨天中止

関西フランチの活動に参加しませんか

関西の会員グループ「関西フランチ」は、自然と親しむ会や勉強会企画のお手伝いをしています。

また、定期的に座談会を行ってアイデアを出し合い、自主企画などもやっていきたいと思っています。

参加したいかた、興味のあるかたは大原 yihuang.d@gmail.com までご連絡ください。

GEN への寄付金が大阪市民税から税額控除されます

緑の地球ネットワークの活動が「市民の福祉の増進に寄与する」として、この度大阪市の条例により、寄附金税額控除の指定を受けました。

大阪市民（個人）の方からの2012年

1月1日以降の寄附金が対象です。寄附金の年間合計額から2,000円を差し引いた額の6%が、総所得金額の30%を上限として税額控除されます。

2012年1月1日から12月31日まで

にGENに寄附していただいた分を、翌年の3月15日までに確定申告をする必要があります。

対象となるみなさんには近く説明書類等をお送りします。

みなさんの一層のGENへのご支援をよろしくお願いいたします。

参加者募集

緑の地球ネットワーク 20 周年記念シンポジウム

『緑をまもる、命をつむぐ』

GEN20 周年を記念して今年 1 月に東京でシンポジウム、8 月に大同でイベントを行ない、反響を呼びました。いよいよ 11 月に大阪でシンポジウムを行ないます。ぜひご参加ください。

- | | |
|---|---|
| ○日程：11 月 17 日（土）13 時 30 分～ 16 時 30 分 | ○コーディネーター |
| ○会場：エル・おおさか（大阪府立労働センター）
（地下鉄・京阪「天満橋」駅下車） | ▽福本麻衣さん（イオンリテールワーカーズユニオン） |
| ○参加費：1,000 円（学生 500 円） | ○報告 |
| ○パネリスト | ▽高見邦雄さん（GEN 事務局長） |
| ▽只木良也さん（自然大学学長、国民森林会議会長） | ○終了後、懇親会を行ないます。会費（予定）3,500 円。参加ご希望の方は 11 月 14 日までに GEN 事務所までお知らせください。 |
| ▽高田直俊さん（前大阪自然環境保全協会会長） | |
| ▽前中久行さん（元大阪府立大学教授、GEN 代表） | |

GEN 関東ランチ月例会のご案内

【9 月月例会】

○日時：9 月 22 日（土）秋分の日 15 時～ 18 時ごろ

○場所：立教大学池袋キャンパス 5 号館 1 階第 1・2 会議室

○内容：夏のスタディツアー報告会、夏の西伊豆企画の報告会

【10 月月例会】

○日時：10 月 20 日（土）15 時～ 18 時ごろ

○場所：立教大学池袋キャンパス 5 号館 1 階第 1・2 会議室

○話題提供：本木洋子さん（放射能

NO！ネットワーク取手代表）

タイトル「覚悟を問われた一年」

福島原発事故の放射能ホットスポットの街で、放射能 NO！の活動をして

いると、国の施政と直面します。

だれのための国なのかがみえてきて、

それは仕事で関わっている熊本県水

俣市が抱えてきた問題と、同じ構図

でした。

【11 月月例会】

○日時：11 月 10 日（土）13 時～ 18

時ごろ

○場所：立教大学池袋キャンパス 5 号館 1 階第 1・2 会議室

○話題提供：高見邦雄 GEN 事務局長

★運営懇談会と連続するため、開始時間がいつもと異なります。

【12 月月例会】

○日時：12 月 15 日（土）15 時～ 18 時ごろ

○場所：立教大学池袋キャンパス 12 号館 B1 階 第 3・4 会議室※場所がい

つものところと異なります。

○話題提供：美谷島克美さん（元出光

オイルアンドガス開発㈱技術担当副

社長）

エコポイント終了

2009 年 7 月からはじまったグリーン家電エコポイント制度は、11 年 5 月末に受付を終了、12 年 3 月末をもって商品交換申請も終了しました。GEN は環境寄附対象団体としてこの間中国黄土高原の緑化に 2,085,393 円のご寄付をいただきました。

1 年遅れてはじまった住宅エコポイント（現在は被災地からの復興支援・住宅エコポイントのみ）は、これまでのご寄付が 504,410 円でした。近畿日本ツーリスト（株）からは、両方あわせて 1,791,161 円をご寄付いただいています。

本紙をお読みの方にもご協力をいただいた方がおられると思います。ありがとうございました。

参加者募集

GEN 関東ランチ冬の宇久須合宿

宇久須での活動は、西伊豆町全域に広がりながら、展開し始めました。冬の合宿を下記の日程で行います。冬の西伊豆と一緒に楽しみましょう。

○日程：12 月 7 日（金）夕方集合～ 9 日（日）午後 2 時ごろ解散。

○場所：静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須が中心。

○内容：放置間伐材の整理作業、炭焼き、関東ランチの畑でのサツマイモ、ヤーコン、サトイモ、カボチャの収穫、座談会「里を知る」など。

冬は宿舍の利用が困難ですので、民宿での宿泊となります。

費用などの詳細は、10 月上旬にお知らせします。

問い合わせ先：上田信 ueda@rikkyo.ac.jp



無煙炭化器を使って炭焼き（昨年秋の宇久須合宿）

黄土高原史話 <59>

石はどこへいった

谷口 義介（GEN 会員）

8 月 23 日（火）の新聞テレビ欄をながめていて、京都テレビ、11:00、北魏馮太后（字幕）というのを寓目。したがって、前回く 58 >で「関西では京都テレビが放映したが」と書いたのは不正確、いまでも継続放映中らしい。なお同拙文所掲の系図にある「憑」は「馮」の間違い。それはともかく、馮氏による夫＝第 5 代献文帝の毒殺よりまえ、息子による父＝初代道武帝殺し、のちの 2 代明元帝による異母弟誅殺、さらに宦官による第 3 代太武帝と自ら擁立した新帝の殺害など、まさしく拙文く 54 >のタイトルどおり「血で血を洗うドロドロの」北魏王室内紛劇といったところ。

だが今回は少し目先を変えて、お堅い話を一席。ズバリ、固い石の話です。

雲崗石窟が開鑿されたとき、掘り出された大量の石はどこへいったのか。「不要だし、邪魔にもなるので、そこら辺に捨てた」というのが、まずは常識的な答えでしょう。ところが実は、掘り出された石の一部は 20 キロ離れた大同市街地の南郊まで運ばれて、北魏平城の明堂建築の石垣として利用されていたのです。

1995 年、市街地の東南 2.5 キロ、いまの御河の西側で工事中、地固めた土台を発見。そこで調査したところ、幅 15 メートル・深さ 2 メートルで直径 290 メートルのサークル状水溝が見つ

かり、その中央部で 42 メートル四方の建築基壇も検出、また水溝から瓦や石材が大量に出土した。この石材はすべて灰黄色の中砂岩と細砂岩で、雲崗石窟のものと全く同じ。しかも未完成のまま放置された第 3 窟の内部には採石の跡があり、そのおりついた痕跡のある石材が水溝の石垣となっていた。これがどんな方法で運ばれたかという、当時石窟のすぐ前を流れていた武州川（現・十里河）は分流して平城の苑内を通過して南郊に出ていたのだが、冬季に結水するのを待って、このルートを利用したらしい。北魏の酈道元『水経注』漯水の条にみえる如渾水というのがこの川筋のことで、「明堂」のすぐ東を通ったあと、再び武州川と合流した、とある。

この明堂について『水経注』は、「上円下方、四周十二堂九室。…霊台をその上に加ふ。下は則ち水を引きて辟雍と為し、水側は石を結んで塘を為る」という。すなわちこの「石」が発掘で見つかった石材で、長さ 65 × 幅 35 × 厚さ 17 センチの同一規格。加工されたとき出た石の破片も水溝の底に敷かれ、有効利用されていた。明堂とはそもそも宇宙を天円地方とみて上部は円く下部は方形に設計された祭堂で、ここで天子は祭祀を行ない、諸侯を会し、

政教を万民に宣示した。「霊台」というのは天象や雲気を観察する一種の天文台で、天命を受けた皇帝が天の意志を探る施設。また「辟雍」は天子の学問所にして、儒教の礼を実修するところ。そのまわりに水が引かれているのは、天子の徳が水のごとく天下の隅々までめぐることを表わす。平城の場合、如渾水が水溝に導かれ、さらに武州川に放出されていたわけだ。明堂・霊台・辟雍とも西周時代以来の伝統で、後漢の洛陽でも発見例があるように、帝都の南郊には必ず設けられた。

『魏書』高祖紀によると、孝文帝（471～499 在位）の太和 10 年（486）9 月、「明堂・辟雍を起す」詔が発せられ、同 15 年（491）10 月、「明堂・太廟成る」という。完成直前の 490 年、馮太后が死去し、孝文帝による親政が始まる。帝は北魏の伝統だった平城西郊での祀天の儀礼を廃止し、南郊で天を祀る儀礼に切り替えるが、明堂などの設置もこうした「中国化」の一環にはかならない。



大同北魏明堂遺跡の堀

参加者募集

白砂青松の美しい景観を復活しよう！
「森林ボランティア in 箱石」参加者募集

○日時：11 月 10 日（土）昼から 11 日（日）昼まで

○場所：丹後半島久美浜町箱石海岸

丹後半島の箱石海岸は山陰海岸国立公園であり世界ジオパークにも指定された美しい海岸ですが、海岸の松林がなくなり、農業や暮らしに風・砂等の影響をうけています。

京都府京丹後市、地元、市民団体などが、松林再生に取り組んでいます。

今年 3 月、伊藤武さん、小川眞さんのご指導で、1 泊の植林、除草作業が行われました。GEN から 7、8 名が参加しました。植林作業とともに、参加者やお世話いただいた箱石のみなさんとも楽しく交流しました。

今回、3 月と同様の内容で植林が行われます。今回は往復に車の乗り合わせ等も検討して、参加したいと考えています。

詳細は未定ですが、判明次第お知らせしますので、ご希望の方は GEN 事務局までお問い合わせください。



ナチュラリスト入門講座 公開講座

大阪自然環境保全協会が行なっているナチュラリスト入門講座の公開講座の紹介です。

○会場：大阪産業創造館（堺筋本町）
18時30分～20時45分

●11月2日（金）
日本列島における人と自然・これまでとこれから
講師：辻野亮さん（京都大学・霊長類研究所）

●12月21日（金）
ワイルドライフ・マネジメント
野生動物保護管理最前線！
講師：中村幸子さん（兵庫県立大学 / 兵庫県森林動物研究センター）

●1月22日（火）
野生動物とヒトとの関係～賢明な棲みわけにむけて

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

講師：高柳敦さん（京都大学／かもしかの会関西代表）

●フィールドワークを12月か1月に開催予定

鹿とムササビとヒト④奈良公園

講師：立澤史郎さん（北海道大学／かもしかの会関西前代表）

●問合せ・申込み：（公社）大阪自然環境保全協会（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel.06-6242-8720 fax.06-6881-8103 e-mail：NOB@nature.or.jp URL <http://www.nature.or.jp/training/naturalist.html>）

生きものから見る共生の森 ～産業廃棄物処分場を生き物の楽園にする方法とは？～

大阪府の産業廃棄物処分場である「堺第7-3区」を多様な生き物が棲む「森」

に変える共生の森づくりについてのフォーラムです。

●日時：9月23日（日）13時～16時30分

●場所：阿倍野市民学習センター

●内容：現場レポート「ついに現れた！哺乳類たち」早川篤さん（大阪市立天王寺動物園 飼育員）、「猛きんのパラダイス堺第7-3区」納家仁さん（日本野鳥の会大阪支部 幹事）、「生物多様性と森づくり」高田直俊さん（大阪自然環境保全協会前会長）

●ミニ分科会いきものの楽園を目指して パネルディスカッション「私がつくる共生の森」

●問合せ・申込み：NPO法人「共生の森」（〒580-0012）松原市立部1-6-3 里山環境教育オフィス tel.072-333-0309（里山倶楽部内）fax.0721-25-3128 e-mail：kokuda8414@nifty.com